

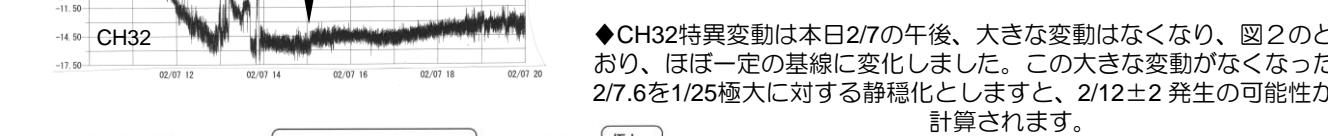
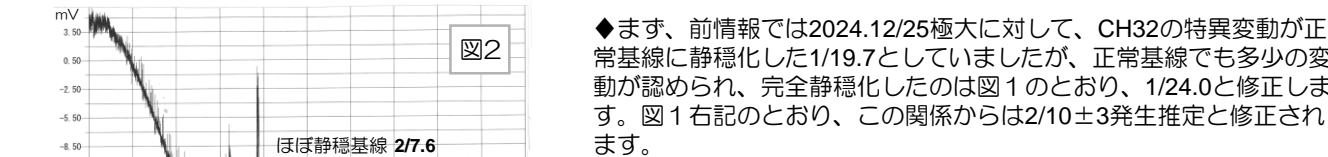
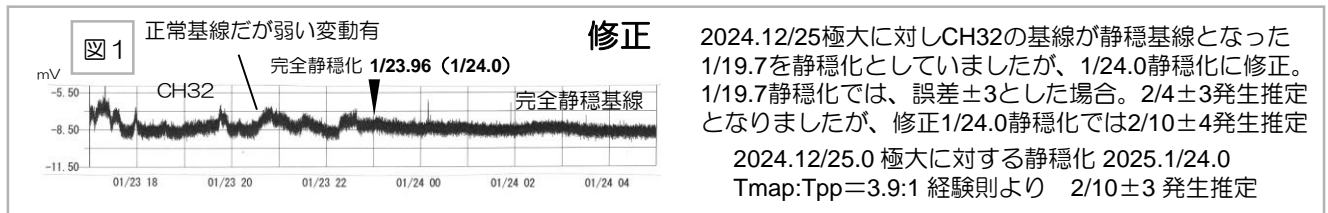
八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

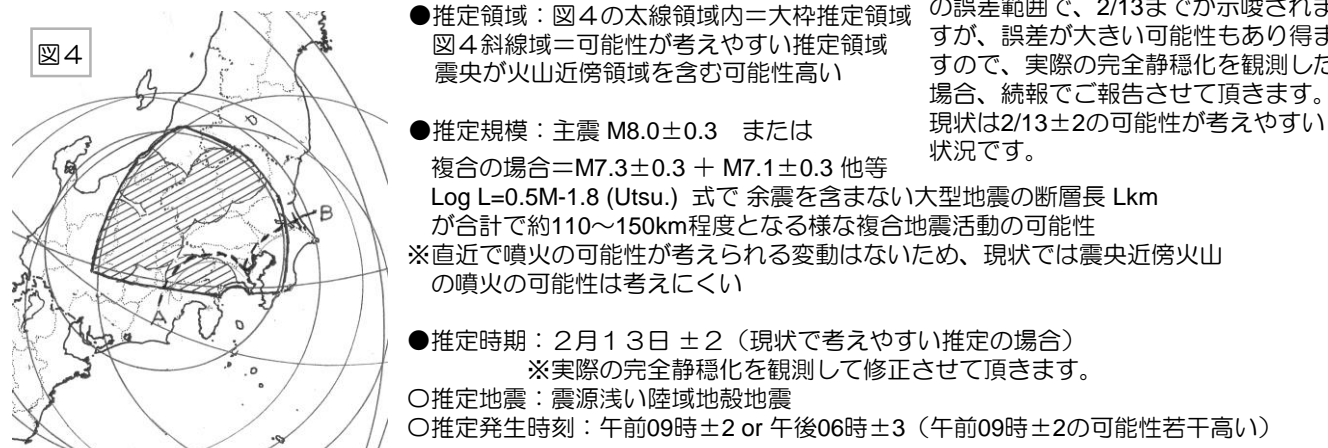
No1778長期継続変動 CH32特異変動 2/7.8 現在ほぼ静穏基線化 対応地震 現状 2月13日±2 発生の可能性考えやすいが 完全静穏化待ち



◆しかし、まだ基線に弱い変動が認められます。完全静穏化は極めて近いと考えられますが、まだ完全静穏ではない認識です。完全静穏化が観測された場合、発生時期を計算できます。

2/8.5±0.3静穏化の場合=2/13±1発生
2/9.2±0.3静穏化の場合=2/14±1発生
2/10.0± 静穏化の場合=2/15±1発生

図1の静穏化の関係からは2/10±3の誤差範囲で、2/13までが示唆されますが、誤差が大きい可能性もあり得ますので、実際の完全静穏化を観測した場合、続報でご報告させていただきます。現状は2/13±2の可能性が考えやすい状況です。



A～B弧線以南の可能性は低い